

賜物を与える方と神の武具の構成要素

聖書：エペソ 4:7-16, 6:10-20

- I. エペソ第4章7節から16節がわたしたちに提示しているのは、賜物を与える方としてのキリストであり、それはキリストの有機的なからだの内在的な建造のためです。この建造は、キリストの賜物の度量にしたがって神聖な恵みを与え、分与することによります：
- A. キリストのからだのあらゆる肢体は、からだにとって必要不可欠な賜物です——エペソ 4:7, I コリント 12:14-22, ローマ 12:4-5：
1. キリストの賜物とは、神聖な三一によってその人の中へと分与されたキリストの命と要素をもって構成されている人のことです——参照、II コリント 1:15。
 2. 賜物のある人にはそれぞれ度量があります。神聖な恵みは、その度量にしたがって、その人の中へと与えられ、分与されます——エペソ 4:16, 参照、ローマ 12:3。
- B. キリストの有機的なからだの内在的な建造は、かしらであるキリストが彼の昇天(彼の復活も含む)において、神聖な三一の分与によって構成された賜物のある人たち、すなわち、使徒、預言者、伝道者、牧する者また教える者を、キリストのからだに与えることによります——エペソ 4:8-12：
1. エペソ第4章8節は言います、「彼は高い所へ昇られた時、とりこにされていた者たちをとりことして引いて行き、人々に賜物を与えられた」：
 - a. 「高い所」は、詩篇第68篇18節から引用されており、シオンの山を指していて(15-16節)、神の住まわれる第三の天を象徴しています(列王上 8:30)。
 - b. 詩篇第68篇は、契約の箱が勝利を得た後、神がその契約の箱の中でシオンの山に昇られたことを暗示します(民 10:35)。これは、キリストがどのようにして勝利を獲得し、もろもろの天に凱旋^{がいせん}して昇られたかを描いています。
 - c. キリストは、彼の宇宙的な行程を通し、彼の昇天において、サタンによってとりこにされていた者たちをとりことして引いて行き、彼らを彼のからだに対する賜物にしました——エペソ 4:8-11：
 - (1) 贖われた聖徒たちは、キリストの死と復活によって救われる前、サタンによってとりこにされていました——参照、ルカ 4:18。
 - (2) キリストは彼の昇天において、彼らをとりことして引いて行きました。すなわち、彼らをサタンのとりこから救い出して、ご自身に帰されました——詩 68:18。

- (3) キリストは彼の昇天において、彼らを取りことして、征服された敵の行列の中で天に引いて行き、彼のからだに対する賜物にしました。
 - (4) 今やキリストは、彼の征服された敵の上で凱旋を祝賀して、彼のからだを建造する務めのための行動において、凱進行進の中で彼らを取りことして引いて行っています——Ⅱコリント 2:14。
2. キリストがわたしたちの内側で昇り下りし、わたしたちを捕らえ、征服すればするほど、ますます彼はわたしたちをご自身で満たして、彼のからだに対する賜物として構成します——参照、エペソ 4:9-10。
- C. キリストの有機的なからだの内在的な建造は、賜物のある人が神聖な分与の中で聖徒たちを成就して、すべての聖徒たちが新約の務めの働きを行なうことができるようにすること、すなわち、キリストのからだを建造することができるようにすることによります——エペソ 4:11-12：
1. 賜物のある人たちが聖徒たちを成就するのは、命の木にしたがって、命の供給をもって彼らを養い、彼らを命において成長させることによります——創 2:9. I コリント 3:2, 6。
 2. 賜物のある人は聖徒たちを成就して、自分たちが行なうことを聖徒たちが行なうことができるようにして、彼らにキリストのからだを直接、建造させます——マタイ 16:18. エペソ 4:11-12. 参照、I テモテ 1:16. 4:12。
 3. この成就することの結果は、わたしたちすべてが、その信仰の一に、また神の御子を知る全き知識の一に到達し、一人の完全に成長した人に到達し、キリストの豊満の身の丈の度量にまで到達することです——エペソ 4:13. 参照、ヨハネ 17:23。
 4. この成就することは、わたしたちがもはや幼子ではなく、波にもてあそばれたり、教えのあらゆる風によって吹き回されたりすることがないようにします。この教えは、サタン的な誤りの体系をもくろむこうかつな人の悪巧みです——エペソ 4:14。
 5. この成就によって、キリストのからだのあらゆる肢体は愛の中で建造する肢体となり、かしらの中へと成長し込み、かしらから出てくる機能を持つようになります——15-16 節。
- II. エペソ第 6 章 10 節から 20 節は、キリストが神の武具の構成要素であることを啓示しています：
- A. 神のすべての武具は、団体の戦士としてのキリストのからだ全体のためであって、からだのいかなる個人的な肢体のためでもありません。わたしたちが霊的戦いを戦うのはからだの中でなければならず、個人としてであってはなりません——エペソ 6:10-13. ヤコブ 4:7. 参照、ローマ 13:12-14. 申 32:30。

- B. エペソ第2章で、わたしたちはキリストと共に天上に座って、彼が達成したすべてにあずかります(6節)。第4章と第5章で、わたしたちは彼のからだの中で地上を歩いて神の永遠の定められた御旨を完成します(4:1, 17, 5:2, 8, 15)。そして第6章で、わたしたちは彼の力の中で天上に立って神の敵に対抗して戦います(11, 13-14節。参照、Iヨハネ5:4, 18, ヨハネ3:6後半)。
- C. 「ですから立ちなさい。真理を腰に帯として締め、義の胸当てを身に着け」——エペソ6:14前半：
1. この「真理」は、わたしたちの生活の中の実際としてのキリストにある神、すなわち、わたしたちの生活の中で、わたしたちによって実際化され経験された神を指しています。これは実は、わたしたちによって生かし出されたキリストご自身です——4:15, 21, 24-25, ヨハネ14:6, 8:31-32, 36。
 2. わたしたちが帯として締める真理は、実はわたしたちが経験するキリストです。パウロの生活はキリストの模範に同形化されていたので、パウロはすべての反対と逆境に立ち向かう力を持ちました——エペソ4:20-21, ピリピ1:19-21前半。
- D. 「義の胸当てを身に着け」——エペソ6:14後半, Iコリント1:30, エレミヤ23:6：
1. キリストは義の胸当てとして、胸で表徴されるわたしたちの良心を覆います。わたしたちを訴える者であるサタンとの戦いにおいて、わたしたちは血によってきよめられた良心、とがめのない良心を必要とします——ヘブル9:14, 10:22, 使徒24:16。
 2. 「兄弟たちは、小羊の血のゆえに、……彼に打ち勝った」(啓12:11)。サタンの訴えに対するわたしたちの応答はこうあるべきです、「わたしが訴える者であるサタンに打ち勝つのは、わたしの完全さによってではなく、とがめのない良心によってでさえなく、小羊の血によってである。わたしは義の胸当てによって、彼の訴えから守られている」。
- E. 「平和の福音を確固とした土台として足にはきなさい」——エペソ6:15：
1. キリストはわたしたちのために十字架上で、神との平和と人との平和をつくられました。そしてこの平和は、わたしたちの福音となりました。平和の福音は、確固とした土台として、わたしたちが足にはく備えとして、確立されました——2:13-17。
 2. わたしたちは平和の中で立つことによって霊的戦いを戦います。もしわたしたちがわたしたちと神の間の平和、あるいはわたしたちと他の信者たちの間の平和を失うなら、戦う立場を失います——コロサイ3:15。
- F. 「なおその上に、信仰の盾を取りなさい。それによって、あなたがたはあの

「邪悪な者の燃える火の投げやりを、いっさい消すことができます」——エペソ 6:16．Ⅱコリント 4:13．ヘブル 12:2：

1. 燃える火の投げやりは、サタンの誘惑、提案、疑い、疑問、虚偽、攻撃です。わたしたちは信仰の盾を取って、これらの燃える火の投げやりを消す必要があります。
 2. わたしたちは信仰の霊を活用して、服従させられ復活した意志をもって、主の現れが悪魔のわざを破壊するためであることを信じる必要があります——Ⅰヨハネ 3:8．マタイ 16:22-23．ルカ 4:39-41．マタイ 12:28．ルカ 10:17，19。
 3. わたしたちは信仰の霊を活用して、主の死がサタンを滅ぼしたことを信じる必要があります——ヘブル 2:14．創 2:17．3:15．ガラテヤ 2:20．ローマ 6:3-6．Ⅰコリント 15:54-58。
 4. わたしたちは信仰の霊を活用して、主の復活がサタンを辱めたことを信じる必要があります——コロサイ 2:12-15，20．3:1．ヨハネ 14:30．ピリピ 3:10．イザヤ 61:10．ゼカリヤ 3:4-5。
 5. わたしたちは信仰の霊を活用して、主の昇天がサタンの力よりもはるかに高いことを信じる必要があります——エペソ 1:19-23．2:6．6:11，13。
 6. わたしたちは神への信仰を持たなければなりません。神は真の、生ける、現在の、便利な方です——マルコ 11:22．啓 1:18。
 7. わたしたちは神の心を信じなければなりません。わたしたちに対する神の心は常に良いのです。神にはわたしたちを罰したり、傷つけたり、損失を被らせたりする意図はありません——ローマ 8:28-39。
 8. わたしたちは神の信実を信じなければなりません。神は偽ることができず、常にご自分の言葉に対して信実です——Ⅰコリント 1:9．Ⅰヨハネ 1:9．テトス 1:2。
 9. わたしたちは神の能力を信じなければなりません——エペソ 3:20。
 10. わたしたちは神の言葉を信じなければなりません。神はご自分が語ったことをすべて成就しなければなりません——参照、Ⅰテサロニケ 5:24．エペソ 6:17-18。
 11. わたしたちは神のみこころを信じなければなりません——1:5，9，11。
 12. わたしたちは神の主権を信じなければなりません。神の主権の下で、わたしたちの失敗でさえ働いて益となります——ローマ 9:19-29。
- G. 「救いのかぶとを受け取りなさい」——エペソ 6:17 前半：
1. 救いのかぶとは、あの邪悪な者によって投げ込まれた消極的な思想に対して、わたしたちの思い、知性を覆うためです。このようなかぶと、このようなおおいは神の救いです。

2. サタンはわたしたちの思いの中に、脅迫、思い煩い、心配、恐れ、人を弱くさせるその他の思想を注入します。神の救いは、これらすべてに抵抗してわたしたちが取るおおいです。そして、この救いは、わたしたちが日常生活の中で経験する救うキリストです——ヨハネ 16:33. ピリピ 1:19. ローマ 5:10. 10:12-13。

H. 「その霊の剣、すなわちその霊である神の言葉を、……受け取りなさい」
——エペソ 6:17 後半：

1. 神の武具の六つの項目の中で、その霊の剣だけが、敵を攻撃するために用いられるものです。わたしたちは剣をもって、敵を寸断します。
 2. その霊また言葉としてのキリストは、敵を打ち破って殺すために、わたしたちに攻撃の武器としての剣を供給します。
 3. 「ロゴス(logos)」（聖書の恒常的な言葉）が、わたしたちに「レーマ(rhema)」（その霊の、現在の即時的な生ける語りかけ）となると、この「レーマ」は敵を寸断する剣です——参照、ヨハネ 6:63。
- I. 「すべての祈りと願い求めによって……どんな時にも霊の中で祈り、すべての聖徒のために根気と願い求めの限りを尽くし、このために目を覚ましていなさい」——エペソ 6:18：
1. 祈りは、神の武具の七番目の項目と考えられます。なぜならそれは、わたしたちが他の項目を適用する手段であるからです。
 2. 祈りは、神の武具としてのキリストを適用する唯一の道です。祈りは、わたしたちに武具を実用的なものとならせます。